

## チャペルの思い出

菊地 克之（1975年明治学院高校卒、1979大学社会学部卒）

明治学院のチャペルに初めて入ったのは、高校2年の時、西南学院高校から転校してきた1973年の4月でした。両校のチャペルの設計者が同じヴォーリスであることを知ったのは、もっと後のことです。外観は違うタイプですが、中は似た雰囲気だったと思います。しかし大きな違いは、パイプオルガンです。明治学院のパイプオルガンには圧倒されました。高校時代の礼拝の時間は、このパイプオルガンの音色に癒されました。

大学を卒業してからも同窓会の行事などで度々チャペルを訪れています。1944年学徒出陣のため専門学校を繰り上げ卒業した父、菊地義雄と一緒に出席していました。その父も去年亡くなりました。最後に一緒にチャペルを訪れたのは、2012年1月の新しいパイプオルガンの演奏会でした。

これから先もこのパイプオルガンが多くの人々を癒し続けていくことでしょう。